

水島空襲

千 田 晃 さん

私は昭和20年6月22日の水島空襲の日に、三菱重工業の敷地内^{びし}にいて身をもって爆撃を受け、その時の実感が薄れて行く記憶を一生懸命思い出しながら、戦争を知らない後世の人に伝える使命があるのではないかと思い、記すこととしました。

前は呼松に有った⁽¹⁾第三福田尋常高等小学校6年生を終了し、松竹梅の福田青年学校⁽²⁾の内に併設されていた水島建築工養成所に入所し、他市町村から集まった同窓生と、学業及び⁽³⁾軍事教練にと教育を受けていました。本来の実習は中々であったが、軍の仕事が大部分で、色々な所に行って、技術だけは身に付けていました。そうしている時、2回目の空襲ではなかったかと思うが、水島の社宅の中で仕事をしていて逃げる時に、^{のこぎり}鋸を持っている同僚にぶつかり、胸に10センチくらいの傷が出来ました。今はもう見えないくらいになっています。

そんな日々を過ごしていた時、水島の工場敷地内での仕事が生まれ、先生、同僚共々、軍の仕事をし、昼食の時などには、近くにあった故障した攻撃機の機内で食事をしたものです。操縦席の前面は計器でいっぱい、胴体の内部は水色で配線も複雑、機銃が3ヶ所にあった様な記憶があります。仕事場は三菱^{びし}の工場群と滑走路の間だったので、当日の朝そこに行った矢先、あの大空襲に遭遇しました。⁽⁴⁾警戒警報のサイレンが鳴り響き、ウロウロしているうちに空襲警報となり、⁽⁵⁾B29の爆音が東方から聞こえて来ました。広江の上空を見るとB29の編隊が見えたので慌てて近くにあった防空壕^{ごう}に急いで入り、B29の近づいてくるのを見ていると、機体の下に点々と黒いものが落ちて来ています。「あっ、爆弾だ。」と思い防空壕^{ごう}に伏せて目・耳・鼻を押さえていると、やがて「ヒューヒュー」、「ウゴー」と音が大きくなったかと思った瞬間、「ドンドン、ドンドン」と、その音と響きは凄まじいものでした。もうこれで死んでしまうのかと、脳裏を一瞬かすめました。そうこうしているうちに次の編隊が来ています。早く逃げなくて

はと思いながら、トロッコ棧橋のある方へと防空壕^{ごう}を移動して行きました。2～3回目の爆撃の合間を見ては、ようやくトロッコ棧橋にたどり着きました。真ん中を過ぎた頃、次の編隊が来ていたので、慌てて土手まで渡りきると同時に、押してきた自転車を横倒しにして土手を転がり落ちて身を伏せました。あの恐ろしい轟音^{ごうおん}を聞いた後、もうこれで大丈夫だと思って土手の上に這^はい上がり、そこで見たものは、先ほどわたって来たトロッコ棧橋の姿はもの見事に無くなっているばかりか、三菱重工^{びし}の工場群は壊滅状態でした。私たちは、九死に一生を得たと思いつつ、同僚何人であったかは思い出せませんが、兎^とに角^{かく}王島山まで逃げるのが精一杯でした。その後は山の麓で腰を下ろして、次から次へと来るB29の爆撃の様子をただただ見つめるばかりでした。中畝に有った



【一式陸上攻撃機の残骸】

高射砲陣地から対空射撃はしているものの、B29は編隊も崩さず悠々と西方に去って行きました。その時の機数は百数十機だと思っています。爆撃も終わり、早く家に帰らなければと、同僚共々それぞれの我が家へと向いました。私の家は広江だったので

帰る途中東塚まで来ると、道路とその周辺に大きな爆弾の穴が開いていました。穴は5～6ヶ所、直径10～15m、深さ2～3m位だったと記憶していますが、もっと多かったかもしれません。その近辺に、手が足かは不明ですがちぎれている人に、ムシ口⁽⁶⁾を掛けていた現場が今でも脳裏に浮かんできます。兎^とに角^{かく}悲惨な姿でした。また農家が何軒も壊れている中で、道路の南側の角地にあった家は、屋根瓦は吹き飛ばされ壁は撃ち抜かれている状態で、本当に気の毒でした。色々なことを体験し、身も心も高ぶるまま、我が家へ自転車に乗って無事帰宅した時の事、もう死んだものだと思っていた矢先のこ

とであったから、父母はもちろん家族全員で泣いて喜んでくれました。それも、長男の実は陸軍兵として福井県の部隊へ、次男の剛一は鹿児島(7)の鹿屋海軍航空隊の乙種飛行予科練習生に、三男の真治は松山海軍航空隊甲種飛行予科練習生として入隊して、兄弟4人のうち3人が軍人になっており、身の保障も無い時、死んだと思っていた私が無事帰宅したものだったからだ、今ではそう思っています。そして幾日か過ぎた日、記憶は定かではないが多分8月頃であったと思っています。広島と長崎へ新型爆弾が投下され、その名もピカドンと呼ばれていました。その理由は、空中で1個の爆弾が炸裂した時に、ピカッと光りドンと大きな音がした瞬間、市の大部分が高熱と爆風のため壊滅状態になったとのことあります。これが原子爆弾でした。

その日から幾日か過ぎ、倉敷の浅原の山中で海軍施設部の仕事をしていた時に、今日は重大なラジオ放送があるとの事だったので、ちょうど時間が来たから全員仕事を中止し、ラジオの前に集合しました。はっきりとは聞き取れない声の御言葉ではあったが、それが日本の無条件降伏(8)の敗戦の日であり、現在の終戦記念日であります。

-
- 1 第三福田尋常高等小学校...現在の倉敷市立第三福田小学校
 - 2 青年学校...尋常小学校(のちに国民学校初等科)6年を卒業した後、中等教育学校に進学せずに勤労に従事する青少年に対して社会教育を行っていた。
 - 3 軍事教練...1925年以降、中学校以上の生徒・学生を対象に行われた現役陸軍将校による軍事に関する訓練。1945年に廃止。
 - 4 警戒警報...警戒を必要とする知らせ。特に、戦時下で、敵機の空襲のおそれがある場合などに出される。
 - 5 B29...アメリカ合衆国のボーイングが設計・製造した大型爆撃機。
 - 6 ムシロ...ワラや竹などで編んだ敷物。
 - 7 乙種飛行予科訓練生...大日本帝国海軍における航空兵養成制度の一つ。旧制中学4年1学期修了者(甲種)と高等小学校卒業者(乙種)による志願制だった。
 - 8 無条件降伏...軍隊または艦隊が兵員・武器一切を挙げて条件を付することなく敵の権力にゆだねること。